

市消防団定期観閲式 士気を高める団員たち

市消防団員の士気向上と防火・防災意識のさらなる啓発のため、第18回市消防団定期観閲式が開催されました。今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、人員を減らして式典のみの開催となりました。

式典には市消防団員や市議会議員、市関係者など約200人が出席。大高聖功稲垣地区団長に消防庁長官表彰功労章が伝達されたほか、13人に表彰状・感謝状が伝達・授与されました。

式辞では、倉光市長が「市として、市民の生命を守り抜くため、消防防災体制を強化するなど、災害に強いまちづくりに全力で取り組んでいきます」と述べました。

大淵則昭市消防団長は「団員の皆さんには、ますます精進に励み、地域住民の安心安全のため、一層の努力を期待します」と訓示を述べました。



6/19 松の館

倉光市長から表彰状の伝達を受ける大高稲垣地区団長

穂波小3年生 公共施設の役割などを学習

6/24 市役所



メモを取りながら真剣に説明を聞く児童たち

穂波小学校（千葉義幸校長）の3年生22人が、「わたしたちのつがる市」と題して、総合的な学習の時間に市役所や松の館、旧制木造中学校講堂を訪れ、仕事内容や公共施設の役割などを学びました。

児童たちは、市役所で、つがるちゃんが全身にまとっている市特産の農産物を当てるクイズに答えていたほか、市の面積や人口などについて市職員の説明を聞いていました。

その後、市職員に案内してもらいながら、庁舎内にある市議会議場や各部署と、松の館や旧制木造中学校講堂も見学。質疑応答では市役所の1日の利用者数（約300人）や職員の数（約280人）などを質問し、理解を深めました。

新岡百々花さんは「市役所では、体が不自由な人を手伝ってくれることが分かった」と感想を話しました。

プランター栽培教室 自宅でも食育を

市食育推進応援隊（嶋野和子会長）が、コロナ禍により自宅で過ごす機会が多いことから、自宅でも食育に取り組んでもらいたいと親子プランター栽培教室を開催しました。

この日、14組36人の親子たちが参加し、ハツカダイコンとベビーリーフのプランター栽培の方法を教わりました。

講師の西北地域県民局農業普及振興室の佐藤祐子さんは、培養土の入れ方や種の植え方といった基本のほか、虫よけネットを活用して青虫がつくのを防ぐことなど、栽培のコツを参加者たちにアドバイスしました。

種植えを終えた柏小1年の金澤那奈果さんは「毎日水やりをがんばりたい。野菜が大好きなので、サラダにして食べたい」と収穫を楽しみにしていました。

6/25 市役所正面玄関前



講師の佐藤さんから種の植え方を教わる参加者たち

社会を明るくする運動 犯罪や非行のない社会へ

7/1 市役所



運動推進ののぼり旗を立てる出席者たち

犯罪や非行の防止と、その立ち直りを支えることを目的に「第72回社会を明るくする運動」メッセージ伝達式が行われ、つがる地区保護司会や更生保護女性会、市関係者などが出席しました。

コロナ禍のため3年ぶりの開催となった伝達式では、青森保護観察所野尻実所長が内閣総理大臣メッセージを、つがる地区保護司会吉田誠也会長が県知事メッセージをそれぞれ倉光市長に伝達。それを受けて倉光市長は「保護司会や更生保護女性会の皆さまと一緒に活動し、市民が安全で安心して暮らせるような社会を実現してまいります」とあいさつを述べました。

伝達式後、出席者たちは市内を巡回し、街宣活動を実施。吉田会長は「コロナ禍で市民集会は開催できないが、地道に活動を周知し、犯罪や非行をした人が再犯しないよう立ち直りをサポートしたい。安全安心な社会になってほしい」と話しました。

稲垣中・車力中連合 県大会優勝！

6月4日、5日に鱒ヶ沢町大高山総合公園などで、第39回全日本少年軟式野球大会青森県予選が開催され、出場した「稲垣中・車力中連合」が、持ち味の守備力とチャンスを実確にものにして勝ち上がり見事優勝、東北大会の切符を手に入れました。

この日、選手たちは市役所を訪れ、倉光市長に優勝の喜びと東北大会の抱負を語りました。主将の葛西宗馬くん（車力中3年）は「県大会では守備でリズムを作り、チームバッティングで点を取って勝ってきた。東北大会でも自慢の守備と走力を生かして優勝を目指してがんばります」と活躍を誓いました。

倉光市長は「県を代表して東北大会に出場することを誇りに思います。けがをせずがんばってください」と激励しました。

※稲垣中・車力中連合は、出場した第39回全日本少年軟式野球大会東北Bブロック予選会で優勝を果たし全国大会出場を決めました。

稲垣中・車力中連合の選手の皆さん

7/1 市役所



向陽陸上スポーツクラブの選手たちが県大会で好成績！

7/4 市役所



向陽陸上スポーツクラブの千葉くん(左)、葛西くん(中)、元山くん(右)

6月26日に新青森県総合運動公園陸上競技場で、第38回青森県小学生陸上競技交流大会が開催されました。6年男子100mに出場した向陽陸上スポーツクラブの千葉大翔くんが12秒71の好タイムで見事優勝し、東日本都道府県大会および全国大会出場が決定。走り幅跳びとジャベリックボール投げの2種目を競うコンバインドBに出場した同クラブの葛西然くん（6年）が第2位、元山将吾くん（6年）が第3位と好成績を収め、東日本都道府県大会出場を決めました。

この日、選手たちは市役所を訪れ、倉光市長に大会結果を報告し、全国大会・東日本都道府県大会への抱負を語りました。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大により部活動の行動制限を受け全国大会出場が叶わなかった千葉くんは「昨年出場できなかった悔しさをぶつけた」と意気込んでいました。

倉光市長は「良い成績が残せるよう大会までの練習をがんばってください」と激励しました。

今年も木造夕市がスタート 買い物客でにぎわう

木造夕市の会（八木橋リウ子会長）が、市商工会前駐車場で今年最初の「木造夕市」を開催し、大勢の買い物客でにぎわいました。

この日は、花や有機野菜、手作りのえごてん、にんにく味噌などを販売。近所にお住まいの坂本正夫さんは「漬物用の野菜を毎年購入している。安いのも魅力」と笑顔で話していました。

工藤とめ副会長は「馴染みのお客さんと顔を合わせるとほっとする。元気に10月までがんばりたい」と話しました。

木造夕市は10月末まで毎週木曜日15時から開催されます（9月23日は休み）。8月12日はお盆セール、9月10日は十五夜セールも開催予定です。



7/7 市商工会前駐車場

お目当ての品を買い求めるお客さんたち

日米交流 かかし作りで相互理解を深める



7/8 車力小学校

モニター越しに完成した力作のかかしを紹介する児童たち

東北防衛局（市川道夫局長）が、「かかし作り交流プロジェクト2022 inつがる」を開催。車力小学校（佐々木康栄校長）5年生の児童25人と米陸軍車力通信所（ノリエル・リー所長）のメンバーたち18人が、5つの班になり2日がかかりでかかしを完成させました。

今年もコロナ禍のため児童と車力通信所のメンバーたちは別々の会場をリモートでつなぎ、モニター越しにコミュニケーションを取り合い、相互理解を深めました。

クマをモチーフにしたかかしを制作した班の佐藤莉亜さんは「米軍側と質問しながら、やり取りして楽しかった。クマのかかしにパンダ柄の帯を付けたユニークなところを見てほしい」と話しました。

完成したかかしは、7月9日から7月22日までむらおこし拠点館フラットに展示され人気投票を実施。その後、市役所にも展示され、8月19日まで人気投票が行われています。

出来島・車力でビーチクリーン活動

出来島海岸のごみ拾い活動をしている「SAYAKA. KANKAN」さんが「第2回来島&車力海岸ビーチクリーン」を行いました。出来島海水浴場には市内外からボランティア約100人が集まり漂着ごみなどを回収しました。

第2回の今年も、車力サンセットドーム下の海岸でも清掃活動を実施。スペシャルゲストとしてプロバスケットボールチーム「青森ワッツ」の選手たちも参加。チームのファンや車力漁協関係者など約40人が集まり漂着ごみなどを片付けました。

ごみ拾いを終えて青森ワッツのキャプテン下山大地選手は「地域の方やチームのファンたちとごみ拾いを通じて有意義な時間を過ごせた。今後も地域活動に貢献していきたい」と話しました。



7/10 車力サンセットドーム下の海岸

漂着したポリ容器や漁具を集める参加者たち

ライフセービングクラブと水難救助隊が合同訓練



7/10 マグアビーチ

訓練でライフセーバーから引き継いで心肺蘇生を行う救急隊

水辺の事故ゼロを目指して海水浴場で監視活動などを行っているつがるライフセービングクラブ（江良聡代表）と市消防本部水難救助隊（松橋良之隊長）が、保有する船舶や救助機材の有効活用と連携強化を図るため、初めて合同で水難救助訓練を実施しました。

熱中症傷病者の発生を想定した訓練では、同クラブから消防署への通報のタイミングや状況を伝えるためにどんな情報が必要かなどを確認。海水浴客が沖に流された想定の実演では、お互いのメリットを生かして、ライフセーバーがジェットスキーで迅速に救助に向かい、傷病者を水難救助艇に引き継ぎ、救助隊が船上で処置する流れを確認しました。

訓練を終えたライフセーバーの齋藤俊史さんは「救急隊や救助隊へのスムーズな引き継ぎを確認し合えたことが大きな成果」と話し、松橋隊長は「連携することで救助のスピードアップにつながる」と話しました。

ごしょつがる農協 雑誌を3小学校に寄贈

ごしょつがる農業協同組合（齊藤勝徳代表理事組合長）が、食料問題や環境問題の現状、農業への親しみ、生命の大切さなどを学んでほしいと、同農協管内の3小学校（向陽・瑞穂・穂波）の5年生全員に雑誌「ちゃぐりん8月号」を寄贈しました。寄贈は昨年に続いて2回目。

この日、市教育委員会を訪れたごしょつがる農協木造総合支店藤森義人支店長は「子どもたちの農業離れが進んでいる。農業に携わるきっかけになってほしい」と期待を込めて話しました。

葛西教育長は「写真や漫画が載っていて、子どもたちに分かりやすい内容になっている。夏休みの自由研究にも大変役立つと思います」と感謝しました。

この他に、同農協は3小学校の図書室用に「ちゃぐりん」を毎月1冊ずつ寄贈しています。



7/13 市教育委員会

葛西教育長に雑誌「ちゃぐりん」を手渡す藤森支店長

消防救助技術県大会で「花田チーム」が優勝！



7/21 市消防本部

全国大会に向けて訓練する花田消防士長と工藤消防副士長

6月30日、県消防学校（青森市）で消防救助技術県大会（県消防長会主催）が行われ、県内11消防本部の消防隊員が日頃の訓練成果を披露し競いました。

市消防本部から「ロープ応用登はん」に出場した「花田チーム」（登はん者：花田和馬消防士長、補助者：工藤将崇消防副士長）が見事優勝し、全国大会出場を決めました。

「ロープ応用登はん」は、「補助者」が地上で垂れたロープを支え、「登はん者」が地上高15mの到達点までロープを登り、所要時間を競う種目。9チームが出場し、「花田チーム」は10秒6の好タイムで、チームを組んで8年目にして悲願の優勝を勝ち取りました。

8月26日に東京・立川で開催される全国大会に向けて花田消防士長は「鍛錬して日頃の訓練の成果が出せるようにがんばりたい」、工藤消防副士長は「登はん者と補助者の息が合わないの良いタイムが出ない。息を合わせて上位を目指したい」と抱負を語りました。